

平成29年5月17日

No, 102

# 日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

## 理数アカデミー 合同開講式

5月14日(日)、平成29年度理数アカデミー合同開講式が教育プラザで行われました。小学6年生の理科・算数コースが今年度からスタートです。日立理科クラブの佐藤代表から、自分自身が中学時代に真空管ラジオ作りに夢中になり、ラジオとの接点が転機になって、生涯の仕事となる電機との繋がりが持てたという話から、何かにどれだけ夢中になれるかがとても大切だという事を強調していました。また、3つのモットーとして「**向学心 好奇心 夢中になる**」ことを常に持ち続けて欲しいということ伝えていました。また、来賓として出席した市教育委員会・中山教育長から、受講生に対して、理数アカデミーへ参加する心構えや主体性を持って取り組むことの大切さ、また、母の日にちなんで感謝の気持ちを忘れないようにというメッセージが送られました。

受講生を代表して、河原子中3年・佐藤蓮音君から、次のような力強い抱負が述べられました。「理数アカデミーでの活動は、1年から参加しており3年目になります。学校の授業では教えてもらえないことや学校ではできない実験などが行え、数学や理科に、より興味を持ちました。去年は東京でのJSTにも参加しました。…中略…今の生活を振り返ると、いろいろ反省すべき点が多く、一つ一つを見直し、よりよい生活を送りたいと思います。当たり前のことを当たり前でできることを目標に精進したいと思います。」

その後、合同開講式を記念して、山梨大学名誉教授・鳥養映子先生の「**一科学者のあゆみ・人工衛星の開発から加速器科学まで**」という演題の講演がありました。先生は、世界最強加速器実験施設J-PEARCで超低速ミュオン顕微鏡の開発に従事しています。研究テーマは、とても専門的で受講生には非常に難解な内容です。そこで、先生は「自発対称性のやぶれ」という現象を、持参した風船やビー玉を使って実験しながら一つ一つ丁寧に分かりやすく説明していました。受講生は、実験を通して先生が説明している現象を理解しようと熱心に耳を傾けていました。最後に、サイエンスインカレで受賞した学生のメッセージを受講生に伝えていました。

**とりあえず「やってみる」 なんでこうなるんだろう！ こうしたらどうなるんだろう！ 裏返しに取り付けたらなんでだめなんだろう！ → やってみよう！ 実験してみよう！ つくってみよう！**

**とにかく「行ってみる」 あの博物館は楽しそうだな！ あの研究者に会ってみたい！ あの講座受けたい！あの実験に参加したい！**

実人数41名の受講生たちの理数アカデミーでの活動が始まりました。学校生活や対外的な活動との両立を図りながら、積極的に主体的な取り組みを行い、一人一人の実りある成果が出ることを期待しています。がんばれ!科学者の卵!!

理科コース30名



算数・数学コース18名



自由研究コース8名



文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一  
日立理科クラブ事務所 Tel/FAX 0294-24-3104